

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【植竹小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	各学年、各教科において、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、基礎的・基本的な知識・技能の定着が二極化傾向にある教科もある。このことから、個別に必要な支援を講じていく必要がある。タブレットのアプリ等を効果的に活用し、個に応じた学習指導の工夫を図っていききたい。また、「国語の漢字を文の中で正しく使う」ことについて若干の課題がみられたため、「言葉の特徴や使い方に関する事項」への取組を重点的に取り組み、改善状況を検証していききたい。	
思考・判断・表現	学習活動の中において、意図的・計画的に協働的な学びを取り入れ、相手の意見と自分の考えを比較する機会を増やしていく。自分の考えと相手の考えの相違点を意識させながら意見交換し、記録できるような活動を行っていく。また、各教科の授業で、根拠資料を基に、自己の考えをまとめる活動を引き続き重視していききたい。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p>&lt;学習上の課題&gt; 国語の「文中の主語・述語の関係の理解」については、平均正答率が他の設問よりもわずかに低い傾向が見られた。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 学習活動全般を通して、児童が主語・述語の関係を意識できるような機会を意図的に設定する必要がある。</p>	⇒ 児童が主語・述語の関係を意識できるように、指導者が主述の関係を意識した発問を意図的に設定したり、児童の発表時に発言内容を整理したりする。【毎時間】
思考・判断・表現	<p>&lt;学習上の課題&gt; 算数の変化と関係、データ活用について課題がみられた。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 各教科の学習活動において、グラフの読み方や複数のグラフの取捨選択方法についての指導の機会を設ける必要がある。</p>	⇒ グラフ等の資料を用いる際、「誰が」「どのような視点で」などに注目させることにより、児童が必要なデータを正しく取捨選択できるような発問等を工夫し、資料の見方を高めていけるようにする。【毎回実施】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	児童が主語・述語の関係を意識できるように、指導者が主述の関係を意識した発問を意図的に設定したり、児童の発表時に発言内容を整理したりしたことにより、R5年度と同集団比較結果からの改善がみられた。
思考・判断・表現	A	各教科において、グラフ等の資料を用いる際、「誰が」「どのような視点で」などに注目させながら学習活動を展開したり、児童が必要なデータを正しく取捨選択できるような発問等を工夫したりしたことによって、資料の見方を高めることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語について、満足いく結果であった。その中で、「漢字を文の中で正しく使うこと」について、他の設問と比較し正答率が低く、無回答率も高かった。言葉の特徴や使い方に関する学習活動を意図的に設定し、児童が正しく、適切に漢字を使うようにしていききたい。	
思考・判断・表現	算数においても、十分満足いく結果となった。しかし、「数と計算」において、他の領域と比較し正答率が低い傾向がある。解答類型から、除数が小数である場合の除法計算において、除数を10倍すると被除数も10倍にする必要があることについての定着に課題がみられた。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	全学年とも、平均正答率について概ね満足いく結果となった。その中で、国語の「漢字を文の中で正しく使う」においてやや正答率に課題がみられた。文中で使用されている漢字の意味を考えながら使うことに課題あると考えられる。	
思考・判断・表現	理科の「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率・無回答率に課題がみられた。理科的な専門用語の定着に課題がみられた。学習活動の中で、児童が用語を使って考察やまとめができる活動を十分に確保できなかったと考える。	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	学習活動において、児童同士の関わり合いの機会を意図的に設定している。その際、指導者が児童の発言内容を整理するなどして、児童が主述を意識できる指導をおこなっている。	変更なし
思考・判断・表現	B	各教科でグラフ等の資料を用いる際、グラフの表題や目盛りの単位等読みとり方を中心に行うことができた。しかし、「誰が」「どのような視点で」などに注目しての活動は十分とはいえない。発問等を工夫し、資料の見方を高めていけるようにする。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)